

周防大島スカイカップ ルールブック

(1) 競技内容

ハングライダー：セットタイム

パラライダー：ターゲット

※但し、嵩山からのフライトができなかった場合、もしくは競技成立条件を満たさなかった場合、橘ウインドパークでのグラハン競技に切り替える場合がある。
その際は競技委員長にて決定する。

(2) 競技内容

【フライト競技】

ハングライダー：セットタイム

- (ア) テイクオフ前にスタッフに予定フライト時間を申告し、実際のフライト時間との差が小さくなるのを競う。
- (イ) セットタイムの上限時間は競技委員長にて決定し、タスクブリーフィング時に発表する。
- (ウ) セットタイムの上限を超えてフライトしていた場合はそのタスクの点数を50%減とする。

パラライダー：ターゲット

- (ア) ランディグにおいて、最初に地面についた足跡の内、ターゲットの中心から遠い地点を着陸点として、着陸点とターゲット中心からの距離を計測する。
但し、ポットハーネスの先端については計測の対象外とする。

【グラハン競技】機体は大会側の講習機を貸し出すが個人の機体も使用可能とする。
使用機体、サイズについては選手自身で決定する。

ハングライダー：走り幅跳び

- (ア) スタートラインに向かってグラハンを行いながら走り出し、スタートラインで蹴り出す。
- (イ) スタートラインから最初に地面についた一歩までの距離を計測する。

パラライダー：立ち上げデュレーション

- (ア) 立ち上げを継続している時間を競う
- (イ) 立ち上げは2人同時または競技委員長が定める人数で同時に行う。

(ウ) 立ち上げは競技委員長の合図にあわせて同時に開始し、最後まで残っていたものを勝者とする。

(3) 得点計算

(ア) 各競技の1位が1000点となるように換算を行う。

(イ) 初日と2日目の競技内容が異なっても両日の合計点にて総合順位を決める。

(4) ランディングクローズタイム

(ア) タスクブリーフィングにて設定されたランディングクローズタイムを超えて20分以上フライトをしていた場合は、罰則としてフライト失格とする。

(イ) 但し、安全上の問題や気象上の問題でランディングできないと競技委員長が判断した場合は、罰則は無しとする。

(5) フリーフライト

(ア) 競技時間中のフリーフライトは禁止とする。但し、競技委員長の判断により、競技中の選手への影響がないとみなされた場合はフリーフライトを可能とする

(6) 協議成立条件

(ア) 各クラスの受付選手人数の50%の選手がテイクオフした場合、競技成立とする

(7) 競技の中止

(ア) 一旦競技が開催されても気象条件の急変など、選手の安全が確保されない場合、その競技をキャンセルすることができる。

(イ) その場合フライト中の選手には無線機による連絡を行う。無線機により連絡を受けた選手は速やかに安全にランディングすること。

(8) セットアップ場所

(ア) 参加選手の年功序列により、年長者から5名に限りシニアゾーンでのセットアップを認める。

(イ) 初日はエントリー順とし、エントリー日が同一の選手はくじ引きにより決定する。

(ウ) 2日目は初日の成績順とする。2日目のシニアゾーンは選手間協議で決定する。

(9) テイクオフについて

(ア) フリーテイクオフとする

(10) アウトサイドランディング

(ア) 原則として橘ウインドパークの敷地外にランディングした場合はアウトサイドランディングとし、そのフライトを失格とする。

(イ) パラグライダーに限り、安下庄中学校へのランディングを認め、そのフライトの得点の50%を与える。

(11) 競技失格

(ア) 危険なフライト行為をした場合は競技委員長判断により競技失格とすることができる。競技失格となった場合、その日のフライトは0点とする。リフライトも不可とする。

(12) 使用機体

使用機体は大会開始後には変更できない。但し、競技委員長の許可を得た場合に限り変更することができる。